

若槻小学校の歴史

北国街道が善光寺から越後に向かって山地へ入る手前の小高い丘の上に、若槻小は立っています。17世紀初めの慶長年間に開かれたという北国街道は、近世には北越諸藩の参勤交代の通路であり、近世に入って天皇巡幸の経路になったという事実が示す、信越往還の重要な道でありました。この沿道の宿駅を中核として形成された文化的風土が、若槻学校の存在する教育基板であったと言うことができます。（若槻小学校 100年史 監修者 中村一雄さんのことば 抜粋）

若槻走学校の歴史：若槻小学校は、平成30年度で129周年を迎えます。

明治22年に、7か村が合併し、若槻村と命名され、本校の前身である「若槻尋常小学校」が誕生しました。そして、昭和22年に、6,3制の義務教育が実施され、若槻小学校となり現在に至っています。

学区の変遷：若槻地区は、長野市周辺部で最も団地開発が進んだ地で昭和53年には児童数が1461名となりました。昭和44年に湯谷小学校の檀田地区の児童が湯谷小へと移りました。また昭和56年に徳間小学校から稲田、徳間、東徳間が編入された。現在、若槻住民自治協は、これらの地区も一緒に活動を行っている。それもそのことの名残と思われる。

校舎の変遷：中校舎が昭和46年に完成、北校舎が昭和47年に一部完成、全面の完成は昭和52年。南校舎も同様に昭和52年に完成しました。南体育館も昭和52年に完成し、校舎改築は全面的に終了したのである。北体育館は昭和40年に建てられ、平成27年に、耐震基準に満たないため51年の幕を下ろし、多目的広場として生まれ変わりました。



2代目の勉強の神様、二宮金次郎さんは募金活動により2011年3月9日に再建された。



100年以上の歴史をもつ門柱と桜の古木。現在は通学路も変わり、児童は利用していない。

元長野市教育委員会教育長の奥村秀雄先生の話 ～100周年記念誌より～

「使い古された言葉に、新しい生命を吹き込むのが詩人の使命であると言われます。深く思いやる心の育成を目指す若槻教育は、ずっと以前から受け継がれ、絶えずその時代時代に、新しい息吹を吹き込みながら。初々しく継続されてきた伝統であります。」

平成29年度、新たに迎えた職員を迎え、今この地に生きる若槻の子どもたちのために、新たな気持ちをもって取り組んで参りたいと思います。